

## 第7回武蔵野市図書館運営委員会選書部会の記録

日 時 平成 17 年 9 月 26 日 ( 月 ) 午後 6 時 30 分  
場 所 中央図書館 4 階会議室  
出席委員 毛利和弘部会長 赤星昌子委員 石田和以委員 池田泰委員  
山本輝子委員 村田吉祥寺図書館長 加藤サービス担当係長  
事務局出席職員 三木館長 山中管理係長 森川西部図書館長 春日図書担当係長  
丸本レファレンス担当係長 並木主任 鹿島主事 船崎専門委員

### 議題及び内容

#### ○ 主な協議内容

##### ( 1 ) 議題

##### 武蔵野市図書館の選書について

- ・「武蔵野文庫」の整理と保存について
- ・武蔵野市立図書館のこれまでの歩みについて
- ・『ちびくろさんぼ』の購入について
- ・郷土資料の収集方針について

##### その他

議題 中の各点について事務局より現状の説明の後、協議を行った。主な意見等は以下のとおり。

- ・「武蔵野文庫」については今後も丁寧な整理作業が期待できるが、たとえば、江戸時代の和本等については、初版かどうかというだけでなく、初刷かどうか重要。明治期に入ってから増刷したもの等は価値が低いので、展示に際しては注意が必要となる。こういった識別は難しいので、一度書誌の専門家に見てもらうことが望ましい。
- ・『ちびくろさんぼ』については、差別的な表現が含まれているといっても、それによって読み手である子どもに差別意識が生じるとは考えづらい面もある。研究対象としてだけではなく、子どもが読む作品として考える視点も必要だろう。
- ・一口に郷土資料と言っても、かなりの幅がある。その時点での職員の能力によって左右されることのないよう、明確な収集の方針を立てることが重要。
- ・一般の利用者は古文書を見ても分からない。アドバイスをしてくれる職員がいると興味も湧く。
- ・郷土資料について専門的な知見を持っている司書の存在が重要となってくるのではないか。
- ・「武蔵野文庫」の存在を外に向けてアピールすることが必要。存在が広く知られば、所蔵の資料が『国書総目録』に掲載されるといったことも考えられる。そうなれば図書館自体の評価の向上にもつながる。
- ・「武蔵野文庫」は既に完結したコレクションということだが、コレクションは追加をしてゆくものだ、という考え方もある。毎年、わずかでも予算の一部を貴重な郷土資料の購入に充ててみてはどうか。これからの電子資料の時代においては、こういったものこそ逆に図書館の特色として外部へ発信できる部分となる。
- ・「武蔵野文庫」の各資料について、展示会や講演会などを行ってみてはどうか。展示会をするためには各職員がそれについて勉強しなければならないので、非常に良質な研修にもなる。

次回 平成 17 年 11 月 21 日 ( 月 ) 午後 6 時 30 分から